

# 甲斐ブラン(かいブラン)

登録番号：第3296号

登録年月日：平成4年12月7日

登録者：山梨県(山梨県甲府市丸  
の内1-6-1)

育成者：雨宮 毅 小沢俊治

佐藤俊彦 古屋次郎 平林利郎

古屋 清 三宅正則 望月 太

安藤隆夫 齋藤典義 近藤真理

来歴：「甲州」と「ピノ・ブラン」の交

雑実生

## 特 性

栽培の容易な2倍体の白ワイン用品種である。そのワインは適度な酸味があり、フルーティーに仕上がりが、「甲州」に代わる品種として期待される。

### ■栽培特性

樹勢は強く、樹の広がりは大である。新梢の伸びは良く、枝梢の充実も良い。幼梢先端の綿毛の密度は密である。熟梢は黄褐色で太い。葉の大きさは中で、成葉の葉身は五角形である。花芽の着生は良好で、1新梢あたり2～3花穂を着ける。発芽期は「巨峰」と同時期で、揃いは良い。満開期は石川県や山梨県で6月上旬、長野県で6月中旬、秋田県で6月下旬で、「ピノ・ブラン」とほぼ同時期である。樹勢が強い樹では花振るいしやすい。

### ■果実特性

果房の形は有岐円筒～有岐円錐形で、大きさは220g程度である。粒着の粗密は中である。果粒は円形で、大きさは2g程度である。果皮は黄緑～淡紅色で果粉は少ない。果肉は塊状で、はく皮は容易である。糖度は19%、酸度は0.8g/100ml程度で、渋みおよび香りは感じられない。果肉は不着色であり、果汁は多い。裂果の発生はほとんど認められない。収穫期は山梨県で9月中下旬である。

本品種のワインは酸のしっかりしたフルーティーな味わいで酒質が良好であり、わが国の主要な白ワイン原料である「甲州」より品質が優れているものと考えられる。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

房作りは大きな副穂を除去する程度でよい。摘房は中庸な新梢で1新梢当たり1～2房程度、結果母枝先端部の強い新梢で2果房を残すようにする。高品質の果実を生産するためには、最終的に10a当たり1.8～2.0トン程度になるよう収量の調節を行う。「甲州」に準じた薬剤散布でほとんどの病虫害を防除できるが、雨の多い年には晩腐病に対する注意が必要である。裂果しにくい特性を持つが、連続的な降雨による裂果や晩腐病の発生を防ぐため、ベレーズン期前に果房に傘掛けを行う必要がある。生理障害の発生は認められない。長野県の調査で、耐寒性は中～やや強く、「セミヨン」より強いとされる。

本品種は樹勢が強いため、若木のうちは弱い剪定を心がけ、十分に樹冠を拡大させ、樹勢を落ち着かせることが大切である。棚栽培においては、長梢剪定によって安定的な生産が確保されたが、短梢剪定については今後検討する必要がある。垣根栽培は、花振るいしやすいため困難である。

温暖地においては、成熟に伴い急激に酸含量が減少する恐れがあるため、収穫適期の見定めに注意する必要がある。

### ■地域適応性

各地での、栽培結果から、寒冷地においては、酸含量の減少が遅いとともに、果房が小さく収量性が劣る傾向があった。したがって、本品種は北海道および本州の寒冷地を除いたブドウの栽培地帯に適するものと考えられる。山梨県では3社のワインメーカーで本品種のワインが製品化されており、消費者に好評である。(別所英男)